

令和7年度 全国学力学習状況調査 分析結果

あわら市金津東小学校

○教科に関する調査結果と分析

【成果】

教科	問題番号	内容	県との比較(+)
国語	2二	書くこと	10.7
	3二(1)	読むこと	10.2
	3二(2)	読むこと	13.3
算数	2(2)	図形	17.7
	3(3)	数と計算	12.1
	4(2)	数と計算	21.3
理科	1(3)	「地球」を柱とする領域	12.5
	4(3)	「粒子」を柱とする領域	14.1

国語の「書くこと」の分野で正答率が高かったのは、考えたことや体験したことをワークシートや百マス作文に書く活動を、国語科だけでなく、他教科や総合的な学習の時間においても行ってきた成果と考えられます。また、「読むこと」の正答率が高かったのは、文章全体の構成や筆者の考えを捉える力を育てるためのツールである「説明文のお家」を活用してきていることが成果につながったと捉えています。

算数においては、定期的実施しているチャレンジテストや日々の学習を通して、図形の性質や計算の仕方など、基礎・基本の力がしっかりと身についてきていることが、成果として表れていると考えられます。

理科においては「地球」「粒子」の領域で正答率が高くなっています。理由や結果を予想をして表現する力が身についており、課題⇒予想⇒実験⇒考察という授業の進め方が効果的にはたらいていると考えられます。

【課題と対策】

教科	問題番号	内容	県との比較(-)
国語	1(1)	話すこと・聞くこと	29.5
算数	1(2)	データと活用	16.9
理科	4(3)キ	「生命」を柱とする領域	16.1

国語では、設問1(1)において、話の大筋は理解できているものの、話し合いの相手の意図を読み取ることに課題が見られました。相手の発言の背景や目的を捉える力をさらに育てていく必要があります。

算数では、複数の資料を用いて考える力に課題が見られます。特に、2つのグラフを関連付けて正しい出荷量を求めるといった場面では、情報を整理し、根拠をもって答えを導き出すことが難しい様子が見られました。

理科では、自然の事物・現象と知識を関連付けたり、知識を相互に関連付けたりして理解を深めることに課題が見られました。ペア活動などで友達と自分の考えを比べたり、自分の考えが伝わっているか確かめ合う場面を多くすることで、自分の知識や考えをより深めていくようにしていきます。

○学習状況調査に関する調査結果と分析

学習状況調査(質問紙)の中で、「学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、お互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という問いに対し、86.6%の児童が「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」と回答しました。この結果から、多くの児童が、学級活動を通じて友だちと意見を交わしながら、よりよい学級づくりに前向きに取り組んでいることが分かります。

一方、普段の授業の様子を見ると、自分の考えをただ「言っただけ」「伝えただけ」で終わってしまい、深い話し合いにつながっていない場面も見受けられます。このような様子から、授業においても、子どもたちが「話したい」「伝えたい」と思えるような動機づけを行うことが、学びを深めるうえで重要だと考えています。